

# 194 ヘロデによる尋問

ルカによる福音書 23 : 6~12

[参考]ルカによる福音書 23 : 4~5  
 ピラト (→皇帝の代理人であるローマ市民) は祭司長たちと群衆に、「わたしはこの男に何の罪も見いだせない」と言った。しかし彼らは、「この男は、ガリラヤから始めてこの都に至るまで、ユダヤ全土で教えながら、民衆を扇動しているのです」と言い張った。

06 **これ**を聞いた**ピラト**は、この人は**ガリラヤ**人かと尋ね、07 (ガリラヤが) **ヘロデ** (→ヘロデ大王[マタイ 2 : 1]の息子 (=国主≠王) **ヘロデ・アンティパス**) の支配下にあることを知ると、**イエス**をヘロデのもとに送った。(ピラトは、心の底では、この件に判決を下したくなかったからである。) ヘロデも当時、エルサレムに滞在していた (通常、ヘロデはガリラヤ湖畔のティベリアスにいたが、過越祭のためにエルサレム[ヘロデの宮殿]に来ていた。ヘロデ朝は、ハスモン朝の断絶後に古代ローマ[共和政ローマおよびローマ帝国]よりユダヤ[ユダエ]属州の統治を委任された)。→⑥ (ヘロデの宮殿)

→ (リビング・バイブル) そこでピラトは、「では、この男はガリラヤ人なのか」と尋ね、人々がそうだと答えると、イエスをヘロデ王 (ヘロデ・アンテパス) のもとへ連行するように命じました。ガリラヤはヘロデの支配下にあり、その時ヘロデは、ちょうどエルサレムに滞在中だったからです。

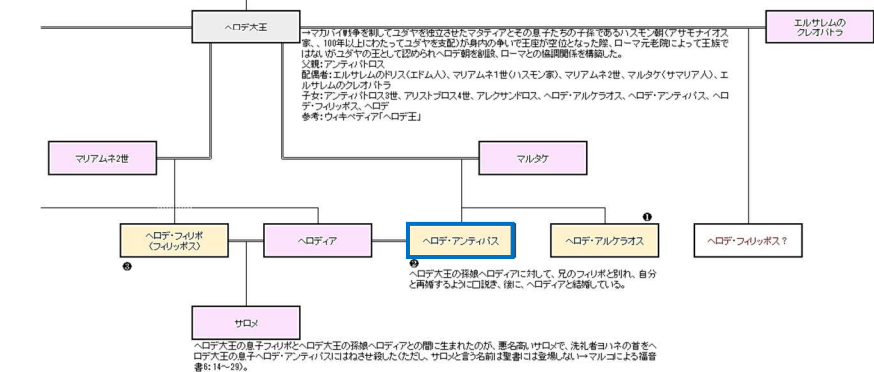
- ① : ファイル No.188 を参照 (ゲツセマネ)
- ② : ファイル No.190 を参照 (アンナス)
- ③ : ファイル No.190 を参照 (カイアフア)
- ④ : ファイル No.192 を参照 (最高法院)
- ⑤ : ファイル No.193 を参照 (ピラト)

→イエスの時代、パレスチナは①ユダヤ、②サマリア、③ガリラヤの3つに大きく区分された。ガリラヤはBC63年にローマ帝国の一部とされ、ローマに直接支配されていた。

→ピラトは、ユダヤとサマリアの統治者、ヘロデは、ガリラヤとペレアの統治者であった。



出典(図): バイブルガイド(いのちのこは社): 地名等は口語訳表記



08 彼 (→ヘロデ) はイエスを見ると、非常に喜んだ。というのは、①イエスのうわさを聞いて、②ずっと以前から会いたいと思っていたし、③イエスが何かしるしを行うのを見たいと望んでいたからである。

09 それで、いろいろと尋問したが、イエスは何もお答えにならなかった。

→尋問に答えなかった理由

1. 既にピラトに証言していた。

2. ヘロデは狡猾で悪名高い狐（ルカ 13：32）で、イエスに会う目的が当初から違っていた。

→ルカによる福音書 13：32

イエスは言われた。「行って、あの（狡猾でずる賢い）狐に、『今日も明日も、悪霊を追い出し、病気をいやし、三日目にすべてを終える』とわたしが言ったと伝えなさい。

10 **祭司長たち**と**律法学者たち**はそこにおいて、イエスを激しく訴えた。

11 ヘロデも自分の兵士たちと一緒にイエスをあざけり、侮辱したあげく、（イエスを無罪とし、王が着るような）派手な衣を着せてピラトに送り返した。→⑦

→派手な衣：NIV：in an elegant robe / NKJV：in a gorgeous robe

12 この日、ヘロデとピラトは仲がよくなった。それまでは互いに敵対していたのである。

→（リビング・バイブル）それまで敵対していたヘロデとピラトがたいそう親しくなったのは、この日からです。

【注意】 ファイル No.194 を開くには、次のパスワード(4桁半角数字)が必要になります。→【3575】